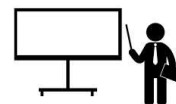


# 四重奏



平成29年11月10日発行

編集 中高一貫教育事務局

～京都大学との連携事業（学問発見講座）～

11月7日(火)、2年生連携クラスを対象に京都大学との連携事業（学問発見講座）が実施されました。講師に京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程 2 回生 小泉嘉輝 氏を迎え、＜日本のポップカルチャーはどんな英語で伝えられているか＞というテーマで 1 時間特別講義をしていただきました。

世界的に人気がある日本のアニメやマンガなどのポップカルチャーを題材にして、これらはどのような英語で発信されているのか、言語の違いは伝達内容にも差を生むのか、という話を中心に講義は進みました。翻訳の仕事もされていることもあり、日本語を英語にする難しさなどわかりやすく教えてくださいました。この講義は日本語と英語の共通点や違いなどを考えることを通して、語学の面白さ、奥深さを改めて気づかせてくれるものでした。また、題材も「DEATH-NOTE」「NARUTO」「ONE PEACE」など、生徒の多くが知っているマンガを題材として扱っていることもあり、話に入り込みやすく、興味・関心を持って講義を受けていました。

以下は、生徒の感想です。



↑マンガ「DEATH-NOTE」の一場面から

・ただ翻訳するだけでは、日本語独自の表現などが伝わらないのだとわかりました。身近にあるマンガなどで比較してみるのも楽しいかなと思いました。

・宗教など文化的な背景も考えて翻訳しなければならないのは大変だと思った。日本語はとても表現力のある言語なのだと思います。

・全世界で「神」を「GOD」と訳すことは難しいのだとわかった。自由な翻訳が出来るためにも、まずは直訳をしっかりと出来るようにしたい。

・英語と日本語の関係は複雑で難しいけれど、翻訳の方法によって印象がまったく別のものになることはとても面白かったです。高校で基礎をしっかりとつくり、自由に翻訳できるくらい英語を使いこなせるようになりたいです。

・ワンピースの話で、英語と日本語の違いを見て英語は面白いと思ったのと、日本語は素晴らしいものだとわかりました。

・私はあまり英語で翻訳された本を読んだことがなかったので、今日の話で面白いことがたくさん知ることができて楽しかったです。また、いろいろな訳し方があることは勉強になったし、ためになりました。いろいろな本を読みたいと思いました。

・日本語を英語にする際の労力やアイディア、そしてどうしても言葉の壁を越えることが出来ない無念を感じる事が出来ました。言葉であることに変わりはないのに、表現に差が大きく出ているという点が面白かったです。



↑笑顔で講義を受けていました

